

# 伊丹福音ルーテル教会 復活日礼拝のしおり

## 2022年4月17日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編 98 編 1-6 節

【賛歌】新しい歌を主に向かって歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。  
右の御手、聖なる御腕によって 主は救いの御業を果たされた。  
主は救いを示し 恵みの御業を諸国の民の目に現し  
イスラエルの家に対する 慈しみとまことを御心に留められた。  
地の果てまですべての人は わたしたちの神の救いの御業を見た。  
全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。歓声をあげ、喜び歌い、ほめ歌え。  
琴に合わせてほめ歌え 琴に合わせ、樂の音に合わせて。  
ラッパを吹き、角笛を響かせて 王なる主の御前に喜びの叫びをあげよ。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。  
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、  
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。  
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様は私たちの罪を赦すために十字架にかかって死んでくださって、私たちに新しい命を与えるために三日目によみがえってくださいました。今朝も私たちはあなたのみ言葉にあずかるためにここにおります。心から感謝をいたします。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、緊張感を保たなければなりません。その中でも 御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：第一コリント 15章 19-26節

この世の生活でキリストに望みをかけているだけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者です。しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられました。死が一人の人によって来たのだから、死者の復活も一人の人によって来るのです。つまり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。ただ、一人一人にそれぞれ順序があります。最初にキリスト、次いで、キリストが来られるときに、キリストに属している人たち、次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や勢力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。キリストはすべての敵を御自分の足の下に置くまで、国を支配されることになっているからです。最後の敵として、死が滅ぼされます。

## 福音書朗読：ルカによる福音書 24章 1-12節

そして、週の初めの日の明け方早く、準備しておいた香料を持って墓に行った。見ると、石が墓のわきに転がしてあり、中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。そのため途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに現れた。人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」そこで、婦人たちはイエスの言葉を思い出した。そして、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始終を知らせた。それは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいた他の婦人たちであった。婦人たちはこれらのことを使徒たちに話したが、使徒たちは、この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった。しかし、ペトロは立ち上がって墓へ走り、身をかかめて中をのぞくと、亜麻布しかなかったので、この出来事に驚きながら家に帰った。

**讃美歌 399 番**

- 1 悩む者よ、とく立ちて、恵みの座に 来たれや  
※ 天の力に癒しえぬ 悲しみは 地にあらし
- 2 幸(さち)なき身の 慰めや 悔める身の 望みや ※
- 3 見よ、いのちの 真清水(ましみず)の 御座より 湧き出づるを ※ **アーメン**

**説教：「三日目に復活する」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様が死人の中からよみがえってくださったイースターの季節です。毎年、礼拝でイースターのご挨拶をしています。「ハレルヤ、イエス・キリストはよみがえられました」と言いますから、皆さんは、「ハレルヤ、イエス・キリストはたしかによみがえられました」とおっしゃってください。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました！

イエス様は復活日の朝、よみがえってくださいました。それによって死が終わりではないことが明らかになりました。イエス様は死を滅ぼされました。そして、私たちはイエス様の復活のいのちにあずかって希望と喜びをもって生きていきます。

イエス様はよみがえってくださいました。十字架に架けられて確かに金曜日に死なれ、お墓に葬られました。しかし、三日目の朝、イエス様を慕う女性たちがその横穴式のお墓に行ってみました。マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいた他の婦人たちです。入り口をふさいでいる大きな石はわきところがされていて、輝く衣を着たふたりの人が彼らに語り掛けました。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。」恐ろしくて怖がっている女性たちに続けて言いました。イエス様が「まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」そう言われて、女性たちはイエス様が確かにそのようにおっしゃっていたこと、そのときはあまりよくわからなかったことを思い出しました。そうだったらお弟子たちに伝えなければなりません。彼らは急いで帰って一部始終を伝えました。お弟子たちもイエス様が十字架につけられて三日目に復活するということは聞いていました。実はイエス様の口から三度も予告を聞いていました。しかし、女性たちの知らせを聞いても信じることはできませんでした。十字架に架けられて死なれた方がよみがえるということは、あまりにも理解を超えたことです。ペテロは墓へ走りまわりました。女性たちが言ったようにそこにはイエス様のご遺体がないことをペテ

口も確認しました。イエス様はその日のうちにお弟子たちみんなにあらわれてくださり、彼らの心の目を開いてくださって、罪の赦しを与えるイエス様の使命が果たされたことと、これからあらゆる国の人々に宣べ伝えられることを教えてくださいました。

第一に死が終わりではないことがわかりました。お墓はからっぽでした。イエス様はよみがえられました。死はおわりではありません。私たちは死んだら終わりだ、とすることがあります。だから今与えられている時間には限りがあることを覚えてお互いにいのちを大切にします。また、とてもとても苦しいことがあると、死んだら楽になると思う人もいます。イエス様を苦しめた人たちは、イエス様が死んだらすべてうまくいくと考えていたでしょう。女性たちもお弟子たちも、イエス様に望みをかけていたけれど、死んでしまわれたのもうだめだ、とっていました。けれどもイエス様の復活は、死は終わりではない、ということを示しています。死はおわりではありません。

第二に、イエス様は死の力を滅ぼしてくださいました。人類に死が入ってきたのは、いのちの造り主である神様から離れてしまったからです。人は神様とともにいることを喜び、神様から託された使命を神様から与えられた賜物を用いて、はつらつと生きていくよりも、自分の判断や能力を自分の幸せのために使いたいという自分中心でわがままな道を選びました。命の源である神様から離れると死を迎えるようになりました。その意味で死は神様の裁きです。神様から離れて死ぬものとなりました。死ぬとわかっているのですから人生の意味は曖昧になります。自分の生きてきた証しを残すこと、自分の愛する人の幸せを願うこと、毎日を当たり障りなく生きていくことでしょうか。

神様から離れた結果、神様は恐ろしい存在になりました。それで私たちはますます神様から離れていきます。しかし自分中心で歩むことには良心の咎めを感じます。なぜなら人はお互いにお互いを信用できなくて、自分を守るようになるからです。思い通りになりません。誤解され、誤解します。傷つけ、傷つきます。この世では人の幸せに責任をもたなければならぬこともありません。自分もいのちの源から離れて、希望のもてない、行き当たりばつたりの、偶然にもてあそばれていることを感じながら、そのなかで精いっぱい幸いを願って歩んでいます。死は私たちを支配し、一生涯死の恐怖の奴隷となっています。絶望は私たちを押さえつけ、不安を植え付けます。

しかし、イエス様は死の力を滅ぼしてくださいました。私たち罪深い者が受けなければならぬ死の裁きをご自分で受けてくださいました。死をつかさどっている悪魔の力を、ご自分の死によって滅ぼしてくださいました。神様から離れていく私たちの罪をご自分で担って十字架で死んでくださり、その裁きを受けてくださいました。私たちのすべての罪を赦し、死に打ち勝ち、悪魔を滅ぼしてくださったのです。死んでくださったままであれば、救いが実際に達成されたのか、イエス様は滅んでしまったのか、わかりません。それでイエス様は私たちの救いが完成したことを知らせるために、よみがえってくださいました。イエス様がよみがえってくだ

さったことで、イエス様が罪と死と悪魔のちからに打ち勝ってくださったこと、死を滅ぼしてくださったことを確信できる喜びの日なのです。よみがえられたイエス様に出会い生涯を変えられた使徒パウロは、コリントの人々に書いた手紙の中で「死は勝利に飲み込まれた。死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。死よ、おまえのとげはどこにあるのか (I コリ 15:54-55)」とパウロは高らかに語るのです。

イエス様はよみがえってくださいました。第三に、私たちはイエス様の復活のいのちにあずかって生きていきます。洗礼によって私たちは十字架のイエス様とひとつとされ、罪赦されて、自分の罪深い性質に死にます。そして、復活のイエス様とひとつにされ、よみがえられたイエス様の新しいいのちをいただきます。私たちは世にある今から、すでにイエス様の与えてくださる永遠のいのちに澁刺と生きるようにしていただいているのです。

自分の内にまだ罪の性質が残っています。それで新しい自分との間に葛藤があります。イエス様を信じて、罪赦されて新しい命をうけている私たちですが、まだ私の中には生まれながらの慣れ親しんだ古い性質や自分中心の価値観や習慣や記憶が残っています。しかし私たちは、古い私が十字架でイエス様とともに死んでいて、既に復活のいのちにあずかっているのです。その葛藤を克服して歩みます。いのちは死を飲み込みます。復活の主イエス様を信じる信仰は、世にある私たちの命を実を結ぶものにします。かつて神様がわからず望みのない歩みでしたが、神様と共に神様の愛に囲まれて歩みます。世にあつて神様が私に託してくださった人に役立つ使命に喜んで打ち込む生きがいあふれた豊かな生涯を歩みます。そして自分を磨いて人々の幸せをともにつくっていくため限りなく成長していく生涯を送ります。老後もその成長はとまりません。

私たちは一度死ぬことと、そのあとで神様の裁きをうけることが定まっています。裁きのときにイエス様がこの人のために私が死んで罪赦され、この人には神の子としての復活の命が宿っています、と弁護してくださいます。復活の命によって、死でおわらない永遠のいのちにあずかっているのです。あたらしい体に復活してくださったイエス様は、私たちがいったん死んで古い体を脱いだら、天国用の新しい栄光の体を与えてくださいます。イエス様の復活のいのちにあずかる私たちは、聖なる民と共に交わり、新しい体をいただいて、限りないいのちを生きていきます。

ヨハネの黙示録には「今からのち主に結ばれて死ぬものは幸いである (14:13)」と記されています。イエス様の復活によって、死はおわりではない、とわかりました。そしてイエス様の復活は、十字架によって死を滅ぼしてくださった証しであることがわかりました。

イエス様を信じて歩むことには、ときとして困難が伴います。また、避けたいようなめんどろなことを予感することもあります。なかなか祈りの聞かれぬもどかしいときもあります。しかしよみがえってくださったイエス様はみ言葉によって私たちに赦し、強め、内側から慰め、

励まし、永遠のいのちへと至らせてくださいます。私たちはイエス様の十字架の死と復活のいのちにあずかって、今もとこしえまでも、神様の子どもとして歩む喜びが与えられています。復活の信仰によって歩まれた先輩の姿を思いながら、みくにでお目にかかることを楽しみにして、私たちも主イエス・キリストを信じて、今週も、そして死を貫いて永遠までも、与えられた、祝福されたいのちを、神様を賛美し、人々のちからになり、自己実現ではなく神様の聖なる使命に生きてまいりましょう。

「人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」ルカによる福音書 24 章 7 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました。

### **讚美歌 502 番 献金 献金感謝の祈り**

- 1 いともかしこし イエスの恵み 罪に死にたる 身をも活かす。  
主よりたまわる あめの糧に 飢えしころも 飽き足らいぬ。  
※ 世にある限り、きみの栄えと いつくしみとを 語り伝えん。
- 2 救いの恵み 告ぐるわれは 楽しみ溢れ 歌とぞなる  
滅びをいでし この喜び、あまねく人に 得させまほし ※
- 3 くすしき恵み あまねく満ち、あるに甲斐なき われをも召し、  
あまつ世継ぎと なしたまえば、たれか洩るべき 主の救いに ※ **アーメン**

### **主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### **頌栄：讚美歌 541 番**

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

### **祝福の言葉**

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき

お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。**アーメン**

後奏